

■ ストラスブール大学と学術交流協定を締結しました。

2010年12月13日(月)、フランス・ストラスブール大学歯学部と本学歯学部との学術交流協定締結の調印を行いました。

調印式はストラスブール大学で行われ、本学からは、有末歯学部長、半田教授、安彦教授、長野助教の4名が出席しました。

ストラスブール大学の、Alain BERETZ学長、Youssef HAIKEL歯学部長、本学の有末歯学部長が協定書にサインした後、調印を祝しレセプションが行われました。

また、調印式に同行した個体差医療科学センターの安彦教授が特別講演を行いました。



ストラスブール大学は、フランス東部で仏独国境をなすアルザス州の州都、ストラスブール市にあります。同大学は1537年に設立されました。2009年には、アカデミズム強化策として同市にあった複数の大学を

統合してフランス国拠点大学のひとつとなり、現在は38学部、42,000人の学生、6,000人の教職員を有する総合大学となっています。

また、フランスでは、歯学部の基礎系を含む基礎医学の研究や教育の機能がフランス国立衛生医学研究所に集約されているのが特徴で、ストラスブール大学歯学部も当該研究所に要員を配しています。

今後、教職員や学生の活発な相互交流が期待されます。



ストラスブール大学は、2009年に理系のルイ・バスクール大学、人文科学系のマルク・ブロック大学、社会科学系のロベール・シューマン大学の3大学が合併。フランス人学生だけでなく、各国からたくさんの留学生が集まる国際色が豊かな大学。

EDITOR'S NOTE

政府の新成長戦略によれば、我が国はこれから「イノベーションを伴った健康大国戦略」を打ち立てるのだそう。老人にはできるだけ長く納税者であり続けてもらいたい、と言っているように聞こえてしまうけれども、まあ、それが良いかどうかは別として、エイジングに伴う機能低下をどう補償するかという物心両面からの研究が不可欠になるだろう。私は、うちの強みは「入れ歯と補聴器が揃っている」ことだと思っている。さらに、「福祉」もある。これはもはや出番ではないか？本学は、北海道の高齢化社会を支えることができる資源の揃った唯一の貴重な大学である。イノベーションとは、金をかけることではなく発想そのものを変えることだ。「入れ歯と補聴器」のワンパック型宅配医療ってというのはどうだろう。老人が雪の中を病院までやってきて、、、という医療はそろそろオシマイにして。さあさあ、みなさんの出番ですぞ。

(T.T記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.146

STAFF ● 増田 国子 派上 尚也 中山 英二 鎌口 有秀
白石 淳 伊藤 道子 大槻 美佳 富家 直明
安彦 善裕 杉原 佳奈 長原 利明 宮川 雄一
戸藤 成人

発行日 ● 2011年3月9日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryo-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryo-u.ac.jp



■北海道医療大学の教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。